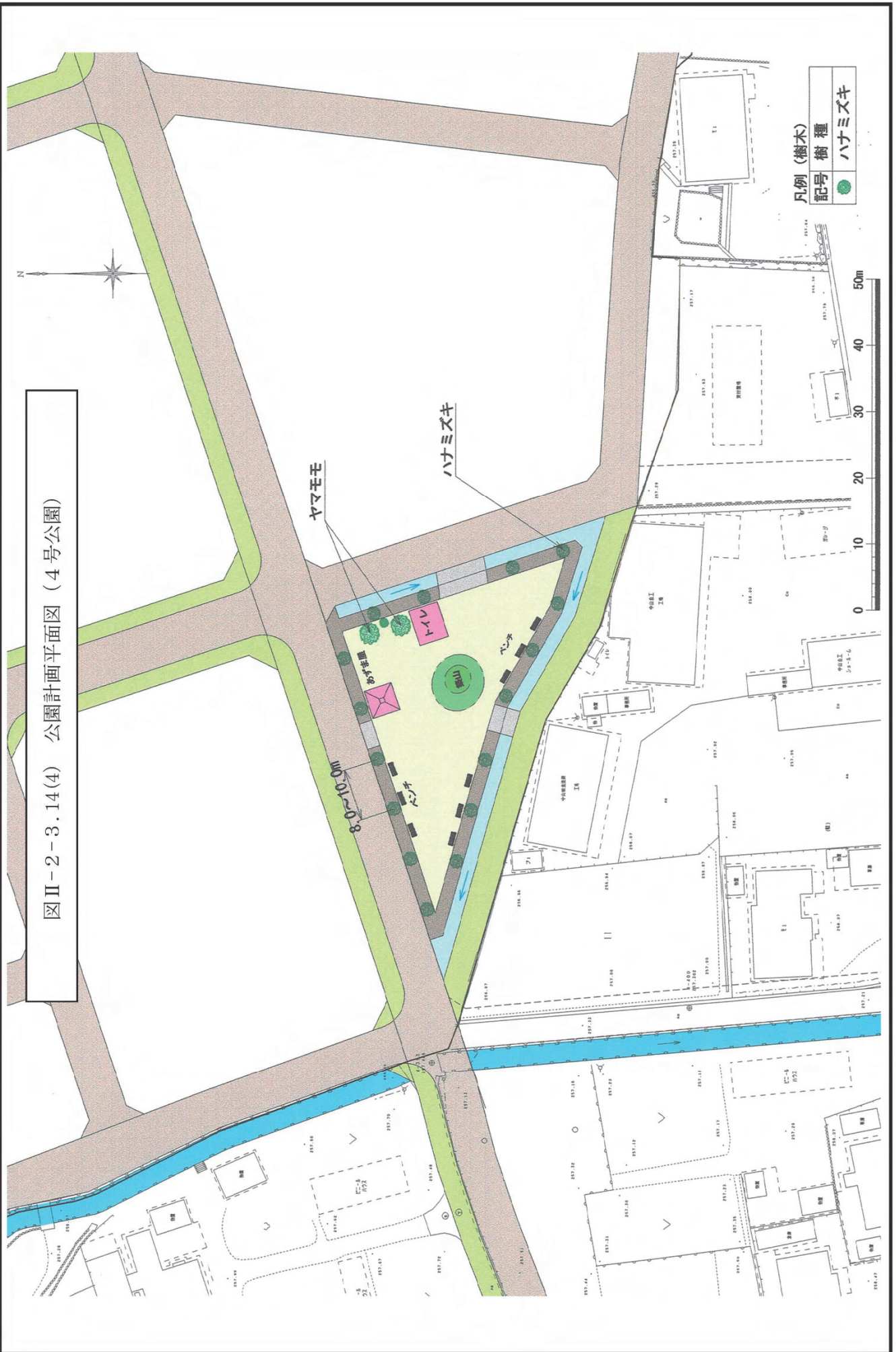


図II-2-3-14(3) 公園計画平面図 (3号公園)



図Ⅱ-2-3.14(4) 公園計画平面図 (4号公園)



## イ. ビオトープ園、緑の回廊整備計画

### (ア) 整備の目的

対象事業の実施により、水田、畑を主体とした農業的土地利用から宅地、商業地の都市的土地利用に変化するため、水田等に依存する生態系が消失することになる。したがって、近隣公園内により自然性の高い水の流れ、水辺を中心としたビオトープ園、緑の回廊を整備することにより、新たな自然生態系を創出し、常永地区等の住民、常永小学校等の児童の自然環境に接する場を提供することを目的とする。

### (イ) 整備の基本方針

ビオトープ園については、池、水辺を中心に草地、樹林地を形成し、釜無川扇状地の自然生態系を創出、維持することを目的とする。そのためには極力人為的な影響がない状況にしておく必要があり、周囲にフェンスを設置して、自由な立入を制限するものとする。なお、常永小学校等の授業の一環としての自然観察や住民による自然観察会等については、園内の立入を可能とし、自然体験学習の場を提供する。

緑の回廊については、ビオトープ園から常永小学校校庭の緑地帯、常永公園の緑と、連続した緑地帯を形成するため、近隣公園西側に樹木や草による緑化を行う。また、近隣公園内に整備する体験農園（水田）とビオトープ園との水の連携を図り、水田生態系～流水生態系～止水生態系と連続した生態系を創出するため、回廊内に水路を整備する。緑の回廊については、流水環境の維持のため、道路側にフェンスを設置して道路からの自由な立入を制限するが、近隣公園利用者には立入可能とする。

また、対象事業実施区域内に生息・生育している保全すべき動植物（メダカ、カワヂシャ、メハジキ、イヌハギ）の生息・生育環境が事業の実施により消失するため、これらの保全すべき動植物の誘導、移植等により生息・生育の場を提供する。

### (ウ) 導入・誘導する生物相

ビオトープ園及び緑の回廊に導入・誘導する生物相を表Ⅱ-2-3. 9に示すように設定する。

導入する植物は対象事業実施区域内外に生育する種が中心となる。なお、導入する植物で調査で確認されていない種のうち水生植物については創出される新たな環境（止水環境）に生育する種であり、また、木本類については潜在自然植生（シラカシ群集、ヤナギ群落）の構成種を導入することから、ビオトープ園等において生育が可能であると考えられる。

鳥類及び昆虫類については、導入または誘導する種のほとんどが現地調査で確認されているものであり、水域や草地、樹林地の整備により、多様な生息環境が出現することから、昆虫類については止水域に生息するトンボ類の多様性が増すものと考えられ、また、これまでこの地域に生息していなかった樹林地に生息するチョウ類やコウチュウ類、セミ類等の侵入が期待される。鳥類については餌と

なる生物が確保されることにより、本事業により周辺地域に生息の場を移した種等の当地域への回帰が期待されるとともに多様な環境の出現により鳥類相も豊になるものとする。

魚類はこれまでこの地域にあった流水環境に加えて、止水環境が出現するので、このような環境を好むメダカ等の生息が可能と考える。両生爬虫類はこれまで生息していたもののうち、アマガエル、トカゲ、カナヘビの生息は維持されると考える。

表Ⅱ-2-3.9 ビオトープ園及び緑の回廊に導入・誘導する生物相

環境タイプ	導入・誘導する生物相			
	植 物	鳥 類	昆虫類	魚類・両生類等
①水域・水辺	セキシヨウモ、カヤツリグサ、チドメグサ、シダ等 浮葉植物；ヒシ、ヒルムシロ等 沈水植物；エビモ、クロモ、セキシヨウモ等	カモ類、サギ類、カワセミ、セキレイ類等	アメンボ、ミズカマキリ、トンボ類、カゲロウ類等	メダカ、フナ、オイカワ、モツゴ、タモロコ、カワヨシノボリ、ドジョウ、サワガニ、アマガエル等
②湿性草地	フトイ、ガマ、クサヨシ、ヨシ、オギ、セリ、セキシヨウモ、カワヂシャ等	オオヨシキリ、セキレイ類等	トンボ類、キタテハ、モンキチョウ等	アマガエル
③乾性草地	ナズナ、スズメノカタビラ、オオバコ、エノコログサ、チガヤ、ススキ、イノコズチ、メハジキ等	スズメ、ムクドリ等	カブトムシ、ハシロキムシ、ヤブヤンマ、カマキリ、コオロギ、バッタ類等	トカゲ、カナヘビ
④湿性常落混交林地（湿性疎林）	シラカシ、ヒサカキ、カワヤナギ、ハンノキ、クサギ、ノイバラ等	カラ類、ヒワ類、モズ等	アゲハチョウ他	アマガエル、アズマヒキガエル等
⑤乾性常落混交林地（乾性疎林）	シラカシ、アカメガシワ、クヌギ、コナラ、エノキ、ガマズミ、ヘクソカズラ等	キジバト、ヒヨドリ、ホオジロ、カワラヒワ、オナガ等	カブトムシ、ゴマダラチョウ、セミ類等	トカゲ、カナヘビ、アズマヒキガエル等
⑥湿性常落混交林地（乾性密林）	シラカシ、アラカシ、ヤブツバキ、シロダモ、アオキ、ヒサカキ、クヌギ、コナラ、エノキ、エゴノキ、クリ、イヌシデ、ヤブタビラコ、ヤブラン、シダ等			

### (エ) ビオトープ・緑の回廊の概要

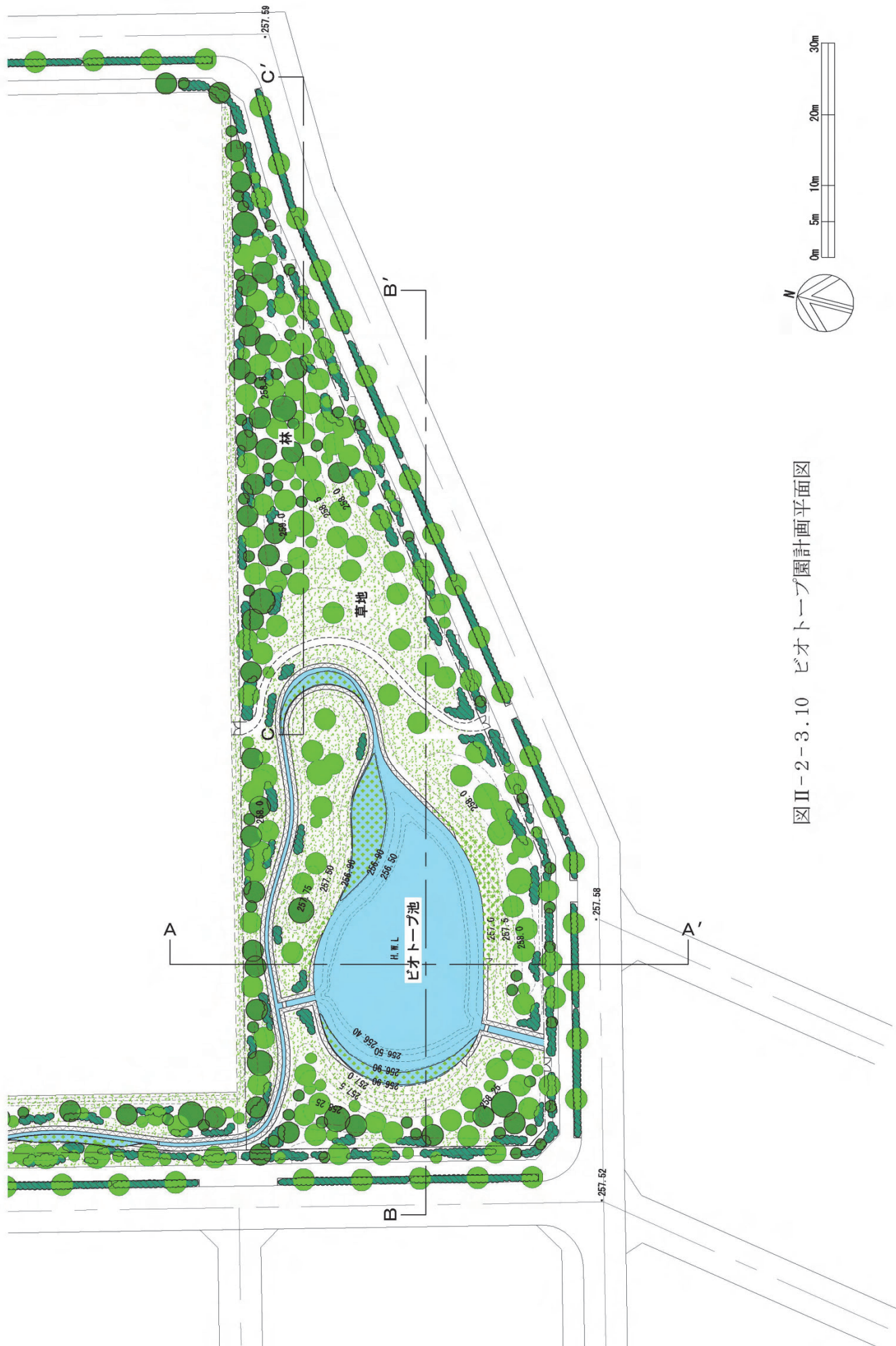
ビオトープ園の計画平面を図Ⅱ-2-3.10、計画断面を図Ⅱ-2-3.11(1)、(2)に、緑の回廊の計画平面を図Ⅱ-2-3.12、計画断面を図Ⅱ-2-3.13に示す。なお、図は整備後5～20年くらいを想定して表現している。

また、それぞれの面積及び区分別面積を表Ⅱ-2-3.10に示す。

表Ⅱ-2-3.10 ビオトープ園・緑の回廊の面積

(単位：㎡)

区 分	ビオトープ園	緑の回廊	合 計	備 考
樹林地 疎林 (乾性)	1,440	534	1,974	
樹林地 疎林 (湿性)	855	669	1,524	
樹林地 密林 (乾性)	626	0	626	
草地 (乾性)	530	331	861	
草地 (湿性)	186	41	227	
池	670	0	670	貯水量：272 m <sup>3</sup>
水路	40	59	99	
合 計	4,347	1,634	5,981	



図Ⅱ-2-3.10 バイオプ池園計画面面図